

ペンテコステに見る三要素

ブロックアドバイザー 浜田耕三



「彼らが祈り終わると、集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされ、神のことばを大胆に語り出した。」（使徒の働き四章31節）

ペンテコステの月を迎えたことを踏まえつつ、初代の教会の姿から、宣教（伝道）の働きにおける三つの存在について学ばせていただきたいと思います。

1 祈りの存在

教会はペンテコステの日に誕生して間もなく困難に直面し、「イエスの名によって語ることも…してはならない」（使徒四・18）と命じられました。その際に初代の教会が取った行動が「祈り」でした。彼らは二つの事を知っていました。①自分たちは、この現実に対して無力であること。②けれども神様には「力」があること。その信仰の表れがこの祈りでした。初代教会の力強い宣教の背後には、こうした隠れた所の祈りがありました。そしてこの祈りこそが、その後の進展の契機となったのです。確かに私たちもしばしば厳しい現実と直面します。けれども一切の権威を持つておられる主の前にその問題を持って行き、この御方に望みを置く者でありたいと願います。

2 証人（人）の存在

この祈りをささげた彼らは、迫害下にあっても人々の前に行きました。そして主は、その彼らを通して宣教の御業を進めなさいました。このように神様は「人」を用いて働きなされる御方です。この末の世とされる時代にあつて、益々「…私たちを助けてくださ

い」（使徒一六・9）との叫び声が上がられていることを覚えます。それに応えることができるのは、十字架の恵みを体験した私たちであり、「収穫の主」は、その私たちを必要としておられます。私たちは確かに小さく、無力であるかも知れません。けれどもこの叫びに応えるべく、私たちも彼らの如く「立って」、どのような形であれ「声をあげ」（イザヤ四〇・9参照）、「いのちのことば」をお届けする者でありたく願います。

3 聖霊の存在

その無力な彼らを立ち上がらせたのは「聖霊」でした。事実、この祈りによって彼らは聖霊に満たされ（更新）、「上よりの力」をもって大胆に語り出したのです。その結果、妨害の只中にあつても更なる主の力強い救いの御業がなされました（使徒五・14）。この世の勢力に打ち勝つ力は聖霊以外になく、宣教の働きの一切の鍵がこの「聖霊」にあると聖書は教えます（使徒一・8参照）。主を裏切り、戸を堅く閉ざして隠れていた弟子たちを変貌させ、教会の誕生をもたらし、迫害の中でも著しい御業をなされた聖霊は、今の「困難な時代」（IIテモテ三・1）にあつても変わらない御方です。同じ御霊の注ぎが私たちにも約束されていることを覚えながら、（無力さを痛感させられる時にこそ）聖霊ご自身とご干渉を祈り求めたいと思います。

この時代にあつて、主は私たちを福音の使節として立てておられます。なおも聖霊の恵みに与り、「世の光」として主を証しする者でありたく願います。

目次

ペンテコステに見る三要素……浜田耕三……1
ペンテコステの思い巡らし、各局からの報告1……2
教団運営委員会報告、各局からの報告2……3
海外トピックス、国内教会局コラム、静岡青年大会……4
西日本ブロック近況と祈りの課題、燭台……5
広げた翼……6～8
聖宣神学院報……9～11
公報、消息……12

ペンテコステの
思い巡し
ガス欠で走ったり



ウェスレアン宣教師
ロビン・ホワイト

ている通りに、聖霊が最初に弟子たちに力を与えられました。ペンテコステは聖霊の力が必須であることを私たちに教えています。使徒の働き一章で、主は昇天する時、弟子たちに待つように命じられました。何のためでしょうか？ 聖霊が降るためです。なぜでしょうか？ 主が与えられた使命は、弟子たちの力だけで成し遂げることはできないからです。

カナダのある夕方のこと、私たち夫婦は友だちを訪ねるために車で移動していました。ちょうど高速道路に入ろうとした時、エンジンが動かなくなっていました。車を路肩に寄せてもう一度エンジンかけようとしたのですが、動きません。仕方なく車をレッカー移動してもらい、助けに来た父親の車で家に戻りました。あとで修理工場から、燃料計が壊れていたと知らせがありました。それでガス欠に気づけなかったのです。同じようなことがクリスチャンの人生にも、教会にも起こり得ます。忙しくて他のことに気を取られてしまった結果、霊的な力をゆっくりと失っていきませんが、気づくことさえありません。

そうならないように、神は私たちに聖霊をお与えくださいました。ですから、霊的ガス欠のまま走らなくてよいのです。これが、ペンテコステの日に私たちが覚えることです。使徒の働き二章で語られ

ている通りに、聖霊が最初に弟子たちに力を与えられました。ペンテコステは聖霊の力が必須であることを私たちに教えています。使徒の働き一章で、主は昇天する時、弟子たちに待つように命じられました。何のためでしょうか？ 聖霊が降るためです。なぜでしょうか？ 主が与えられた使命は、弟子たちの力だけで成し遂げることはできないからです。主でさえも地上での働きの間、聖霊を必要としていました。福音書は主が聖霊に満たされ、導かれ、遣わされたことを語っています。福音書を読めば、主が一人になって祈る時を持っていたことを知ることができます。もし主ご自身が聖霊を必要としていたのなら、私たちにほどれほど必要なのでしょうか？ キリストでさえも立ち止まり、休息し、充電する必要があるのに、なぜ私たちにはその必要はないと考えるのでしょうか？ 不幸にも多くのクリスチャンや教会が聖霊による満たし、導きと力を持たずに働き続けようとして、気づかないうちに霊的なガス欠に陥っているのです。

人生に新鮮な力をもたらす、また教会にリバイバルをもたらすことができます。「しかし、聖霊があなたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。」この約束は弟子たちだけのものではあり、

新しい年度の活動予定

世界宣教局
新しい態勢で
スタートしました

世界宣教局長

田辺寿雄

4月26日(火)午後、春の局員会をオンラインで開催しました。イムマヌエルの全宣教師8名と局員13名(うち信徒3名)が出席され、最初の1時間は、WGMのブランドン宣教師とホーリー宣教師も交えて小礼拝と分かち合いの時間を持ちました。また、3月で退職された小笠原哲也兄にみんなで感謝を表す時も短く持つことができました。

その後の議事では、局長とフィールド部長、庶務部(会計)、広報部、支援部からそれぞれ報告がなされました。最近の円安について各宣教地でどのような影響が出ているかを伺うことができました。

新たに4名の先生方が局員に加えられる、全出席者のうち半分以上の11名が女性となり、感謝でした。

.....

「ません。今日の私たちのための約束でもあります！ 私たちはそれを信じているでしょうか？ 私たちはその約束の実現を待ち望み、祈っているでしょうか？ 霊的燃料計をチェックしてみてください。」

信徒局の充実を目指す2年

壮年部・女性部運営委員会
エリア連絡協議会
次回信徒フォーラム

カナ・セミナー開催
6月18日(土)

信徒局長 齋藤純雄

第77次年会を越えて、早2か月が経過し、創設5年目の歩みを粛々と進めさせていたお祈りです。全国の主に在る皆様の貴いお祈りに支えられておりますことを覚え、感謝申し上げます。

局全体の動きとしては、次の総会期までの2年を見据え、信徒局とエリアの働きを担っていかれる器方のための良き備えの期間となるよう陣容が刷新されました。これが有効に機能していきますように願っております。

6月18日(土)開催のカナ・セミナーのために、準備委員会を何度も重ね、若い方々を始め、聖書に基づき祝福される結婚や家庭建設に関心を持たれる多くの方々に届きますよう、プロモーションビデオを教団HPにアップするなど工夫が加えられました。

6月以降、壮年部・女性部運営委員会やエリア連絡協議会の開催、次回信徒フォーラムのための取り組みなどを通して信徒局の働きが進められようとしております。引き続きお祈りください。

出版事業部からのお知らせ

お待ちせました
『教会福音讚美歌』
奏楽音源が発売に

出版事業部長

川村和臣

出版事業部では本年も文書を用いて、コロナ禍や戦いの中にある教会のサポートを願っています。書籍では昨年末、『エマオの道で』(改訂再版)を発行しました。今年の新聞としては『わが道の光』(仮題)として、岩上敬人先生による、聖書通読の助けとなる書籍を予定しています。内容は各書の概説、分解、解説等です。ウクライナ情勢等への著者の対応のため準備が遅れています。お祈りとともに、ご期待ください。

『祈りのネットワーク2022』をお届けします。また、『洗礼願書』(会員原簿)等も新しくしました。各教会にPDF版をお送りしています。『教会福音讚美歌』奏楽音源USBが、いのちのことは社から発売予定です。出版部でも取り扱っています。これらもご活用ください。

『つばさ』も新しい連載も始まり、尚、内容も充実しています。リーフは現在、休刊中です。状況を鑑みて再発行いたします。業務を担う信徒スタッフの方々のためにも、お祈りください。

教団運営委員会から……

新年度の活動が

始まりました！

広報 浜田耕三



田園地帯では（梅雨入りを告げるかのような）蛙の合唱が響く中、教団運営委員会が5月16、17日にOCC会議室において開催されました。初めに代表より、ヨハネ六章63節、ガラテヤ五章16節が開かれ、「いのち」を与える御霊によって歩むべきことが語られました。続いて新年度における各局の進捗状況、並びに今後の取り組みについての報告、また検討の時が持たれました。

全国の教会では諸課題に取り組みつつ、救霊の働きが進められ、兼牧の教会においても協力体制をもって尊い働きがなされています。なお、ご高齢の先生方を始め、健康の課題を覚えておられる先生方のためにお祈りください。国内教会局では、兼牧化への対応について検討が積まれています。

台湾に派遣され、初めてのイースターを迎えられた久保宣教師方は、新たに「日本語カフェ」などの活動も始めています。葛田就子

宣教師は6月に帰国し、8月から巡回奉仕に当たられます。ザンビアの宣教師館についての契約がPWCとの間で交わされました。少なくとも5年間はIGMの所有となりますが、現在も現地教会によって、宣教の働きのために尊く用いられています。なお宣教コイン献金は本年も実施しますが、今後については世界宣教局で検討していきます。

生涯教育課による「きよめの良書読書学び会」が先月より始められました。青年課のビルド（毎月開催）は、従来の「トークビルド」と「聖書を学ぶビルド」を交互に行うこととなりました。また「YSBリトリート」を7月と11月に計画しています。中高生課では「スタッフ・トレーニング・キャンプ」（5月）を開催するとともに、8月の「とにキャン」に向けての準備を進めています。

神学院では教育局とのコラボ企画として「夏のフェスタ」（8月）、「秋のオープンキャンパス」（10月）、「冬のリトリート」（12月）を計画し、準備を進めています。信徒局では、次回の全国信徒フォーラム開催についての検討を始めています。なお6月には「カナ・フェロシップ・セミナー」がオンラインで開催されます。

厚生委員会主催の「一足先の未来を考える研修会」（5月末開催）についての報告がありました。なお来年の年会について検討を始めています。お祈りください。

国内教会局から……

牧師不足の状況を 克服するために 一緒に担ってください

国内教会局長 大兼久芳規

「わたしは背負う。」（イザヤ四六・4）
国内教会局では、教会への牧師派遣が課題です。神学院にIGMの在学生がいない状況で、数年間牧師の欠員の生じた時に、必ず専任の牧師は任命されますが、常駐の形態が取れません。

先月も、各教団の国内教会を担当する先生方の会合がありました。どの教団でも同じ状況を通っており、異口同音に①牧師の高齢化、②派遣牧師の不足、③献身者の減少が報告されました。

現在も牧師の兼任、教会の合同、ネットを活用した礼拝の共有などで対応がなされていますが、難しさを覚えています。まずは現在の兼牧状況に心を向け、理解を深めていただくと感謝です。

困難を共に担ってください。信徒の方がおられ、教会は支えられています。信徒局でも兼牧への理解に心を向けてくださり、宣教研究委員会でも他教団のリサーチが始められ、心強く感じています。戦いはとても大きいですが、共に背負っていただくと感謝です。

教育局からのお知らせ

次世代育成に 全力を傾けています

教育局長 小川宣嗣

教育局の働きのために、お祈りとご理解、ご協力を感謝申し上げます。今も、「教育部」「青少年部」の2部と、その中にある「生涯学習課」「信徒教育課」「青年課」「中高生課」「教会学校課」の5課の活動について、教育局ホームページ上で絶えず情報が更新され紹介されています。ぜひ折々にアクセスしてご覧頂けると幸いです。

伝道者と信徒（教会）対象の良き学びのプログラム（現在はオンライン中心）が、次々に提供されています。個人的にあるいは教会の仲間と声を掛け合い、ご活用・ご参加を頂ければと願っています。主に導かれて御国の弟子となった私たちはみな、みことばや恵みの世界について生涯学び続けたいものです（マタイ一三・52）。

ユース対象のリトリートやキャンプ、またビルドの毎月の交わりや学びについても、コロナの制約を乗り越えながら継続され、新たな取り組みも始まろうとしています。お祈りをもってユースや中高生の皆さんを励まし、活動に送り出して頂ければ幸いです。

2022年版発行

「祈りのネットワーク」 お届けします お願いもありません

総務局長 寺村秀嗣

『祈りのネットワーク2022』が出来上がりました。ぜひ毎日のお祈りにご活用ください。教会の祈禱会でも開いて、お祈りいただければうれしいです。先生方の顔、教会の写真を見ながら、ぜひ全国の教会と先生方を覚えて、お祈りください。またお友だちやお知り合いに教会を紹介するために使えます。

小さな冊子ですが情報が満載です。それとくに個人情報を守るために、使い終わったバックナンバーを処分するときは、ぜひ大切な個人情報が含まれていることをご理解ください。先生方や教会がトラブルに巻き込まれることのないようにお気を付けいただければ感謝です。今年も一年一巡り12回のお祈りをお願いいたします。



国内教会局から

コロナ禍にある教会
全力で支える

6月はペンテコステの月、
教会の誕生について思い巡
らしているとき、使徒の働
き一章4、5節の弟子たち
への主のことは、「わたし
(イエス・キリスト)から
聞いた「父の約束を」「聖
霊によるバプテスマを」が



目に留まりました。
ここには父なる神、御子
イエス・キリスト、聖霊の
三位一体の神さまが登場し
ており、教会は三位一体の
神さまによって誕生したこ
とがわかります。それ以来
教会は、このお方によって
全力で支えられ、導かれて
きました。

それから現在に至る約
二千年の間、教会は激しい
迫害、試練など、その存続
さえも危ぶまれる中を通ら
されたこともありましたが、
決して変わることはない三
位一体の神さまの恵みに
よって教会は立ち続け、成
長拡大して来ましたが、ど
んな妨げがあっても躓き倒れ
るものではないのです。主
は私たちの教会を恵みのう
ちに守り、前進させてくだ
さるのです。(阪下謙)

■仏アーティストが「笑顔と人間らしさを」とウクライナに壁画
残酷な戦争のさなかにあるウクライナの壁に、平和と無垢を表す絵を描こうと、パリを拠点とするグラフィティアーティスト「C215」ことクリスチャン・ギュミール氏(48)が、首都キーウのバス停に青と黄色のスプレーで少女の絵を描いている。周りの破壊された建物とコントラストをなす。(AFP時事通信)
スプレー缶を持ったギュミール氏は、「支援の印だ」と話し、「厳しい状況の中で、人々が少しでも笑顔になって、人間らしさを取り戻せたら満足だ」と語る。ギュミール氏は、フランスのストリート・アート界を牽引するアーティストの1人で、英国の覆面アーティスト、バンクシーとコラボレーションをしたこともある。ロシアのウクライナ侵攻が始まるとすぐ、パリの集合住宅の壁一面にウクライナ国旗の色である青と黄色で少女

■「テンブルトン賞」今年の受賞者はウィルチエック氏
宗教界のノーベル賞と呼ばれ
に帰国する。だが、必ずキーウに戻ってくるつもりだ。



海外トピックス

の絵を描いた。ウクライナ人から話を聞き、自分に何ができるか数日考え、ウクライナ行きを決めた。危険と知りつつも、行かないという選択肢はないと感じたのだ。ギュミール氏はまもなくフランス

る「テンブルトン賞」の今年の受賞者が、ノーベル物理学賞受賞者のフランク・ウィルチエック氏(70)に決まったとテンブルトン財団が発表。ウィルチエック氏は陽子や中性子の構成要素とされるクォークなどの粒子間に生じる力という性質(漸近的自由性)を発見したことで、2004年に他の物理学者2人と共にノーベル物理学賞を受賞。テンブルトン賞をノーベル賞受賞者が受賞するのはウィルチエック氏が6人目。テンブルトン賞は、世界で最も高額の賞金が贈られる世界最大級の年間個人賞の一つで、常にノーベル賞の賞金を上回る金額が贈られている。宗教間の対話・交流に貢献のあった存命の宗教者・思想家・運動家等に贈られるもので、宗教分野のノーベル賞とも呼ばれる。ビルリー・グラハム氏やビル・ブライト氏など、キリスト教関係者も多く受賞している。(平瀬聡樹)

静岡教区 青年大会 報告……

コロナ禍を乗り越えて集まる
神さまの心にZOOM IN

清水教会 清田智子

「いや、わたしは主の軍の将として……来たのだ。」(ヨシユア五・14)

5月8日(日)午後1時半〜4時、「神さまの心にZOOM IN」〜聴いていますか?神さまの心〜」をテーマに、静岡教区青年大会を行いました。

参加者は青年が15名、伝道者が10名の計25名でした。全国規模の中高校生や青年の集会がありますが、教区という近い交わりだから参加できる方々もいるので、教区の青年大会を毎年開いていました。ここ2年は自粛せざるを得ませんでしたが、青年たちにとって、1年、2年という月日は大変貴重な時代という意見があり、Zoomでの大会に挑戦することにしました。講師にはとにキャンの責任を担っておられる細田恒太郎先生をお招きすることが許され幸いでした。

参加者はこれまでよりは少なかったのですが、教区としては初めてのZoomの集会でしたので、

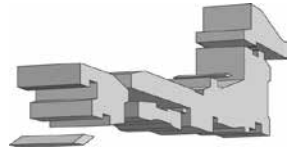
少々の不具合はありましたが、何とか混乱することなくプログラムを進めることのできる人数でした。あらかじめ島田教会の青年が賛美の伴奏と特別音楽を録画していただくさり、それに合わせて賛美をし、特別賛美を伺いました。

参加者には事前におやつと飲み物を300円で準備してもらい、自己紹介の時間におやつも紹介してもらいました。地元愛に溢れたおやつや最近よく食べるおやつ等の紹介がなされ、目に美味しいひと時も楽しかったです。その後、講師に教えていただいたZoomならではのゲームも行いました。

メッセージはヨシユア記五・13〜15から、①神様を王として認めること、②神さまのみこころに聞き従うこと、③神さまとのきよい関係を続けることの大切さを語られました。また、細田先生ご自身の献身の証しを通して、神さまを「味方」として自分の進む道を助けてもらうのではなく、「主の軍の将」でいらっしゃるお方のご計画に従うことの幸いがあることを示され、心を探られました。メッセージ後、青年たちのみ、3グループに分かれて分かち合いの時を持ち、最後はまた皆で集まって、グループリーダーが部屋ごとで語られた恵みを発表してくださいました。青年たちの心に一石を投じたひと時であったことを知りました。

思うよりも、願うよりも、恵みを下さった神さまに心から感謝して集会を締め括りました。

国内教会局 スクエア



西日本ブロックの 近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー
葛田 聡毅

西日本ブロックの為に祈りを賜り、感謝申し上げます。近畿と四国に加えて、本部直轄の沖縄の近況をご報告いたします。

先の年会で彦根教会の佐藤師が引退され、青森で引退された中尾師ご夫妻が王寺教会の近くに転居して来られました。その他転任はありませんでしたが、枚方の戸谷富士子師と堺の葛田真理子師が、年会後の教区会で按手礼を受けられました。今後のご奉仕の祝福をお祈り頂ければ感謝です。

引き続き、姫路・加古川、草津、枚方、豊中、和歌山、香川、糸満は女性牧師お一人で牧会の責任を担っておられます。特に祈りの中にお覚えください。
姫路と加古川、京都伏見と京都西と徳島、彦根と堺。那覇と東風平では、兼牧が続いていますので、教会と牧師のためにお祈り下さい。
《近畿教区》
関西聖会は10月10日、大阪市内のホテルを会場に、対面とライブ配信のハイブリットで開催予定、講師は代表の岩上祝仁先生です。彦根堺と礼拝ライブ中継で共に会堂に集い、礼拝を守って

ます。月一度の対面での祈禱会も再開。草津堺礼拝再開後、平均5名程のライブ継続視聴者あり。皆が一つ心に守られるように。京都伏見7月には青年とCS生とで合同のキャンプを開催の予定。京都西兼牧の中でも求道者やCS生徒が救いの恵みに与るように。高槻10月に教会開設40周年、献堂式15周年記念礼拝を予定。枚方外装工事が完成し、ピンク色の綺麗な会堂に。民生委員に就任した牧師の働きに聖助けを。豊中二部制の分散礼拝が続く中、早く一堂に会せるように。大阪伝法礼拝は二部制を継続。祈禱会と例会の交わりを再開。堺昨年2名、今年新たに2名の癌発見と手術。主が癒して下さるように。神戸ここ暫く召天者が多い。若い魂の成長のため、ユースとCSに力を注ぐ。加古川毎聖日の礼拝は15時、祈禱会は(水)10時半、不定期ながらCS Joy Timeを行なっている。姫路配信は行っていないため、欠席者には加古川との往復時に紙面の説教を配布。王寺屋根の塗装工事を完了で雨漏りが止む。引退された中尾先生が近

くに引越され、聖礼典では御用くださる。高田職場の制限で礼拝自粛中の兄弟方の信仰が守られるように。和歌山近い将来の伝道再開に備えて、CSの一環で指人形劇の活動を開始。
《四国教区》
春の教区会、また夏の四国聖会も、コロナ感染状況を鑑み、残念ながら中止を決定しました。教区活動全体のために、お祈り下さい。徳島月に一度、兼任牧師を迎える対面礼拝を心から楽しみに。普段は中継。香川諸集会はほぼ平常に戻るが、中心的な二人の方が重病との闘いの中に。今治今年から礼拝ライブ配信を開始。30名近くの視聴者がある。松山空調設備交換完了感謝。牧師は両目の白内障手術を受けられた。高知90歳代三名の継続求道者の救いのため。祈禱会も再開できて感謝。
《沖縄地区》
本土返還50周年を迎えて注目の集まる沖縄に、魂の回復の聖業がなされるようにお祈り下さい。
沖縄聖会は11月3日に那覇教会にて開催予定。講師はB.A.音楽ゲストに葛田真理子師。那覇50周年記念礼拝と記念誌が守られて感謝。礼拝出席者も七割回復。東風平40周年記念礼拝と記念誌発行ができた。これからの歩みの祝福のために。糸満今月26日に開設50周年記念礼拝を予定。秋には献堂式15周年記念集會も。
西日本と沖縄のために、引き続きお祈りをお願いいたします。



喜んで続けることが大事!

先日、体操クラブでインスタクターをしてる青年と話をする機会がありました。今でも、限られた種目に絞ってだそうですが、競技会にも出ているそうです。お父様が経営するその体操クラブには、200人近い人が習いに来ていてということですが、その中でもトップを目指す人は一握りだけだと言っていました。

まず、そんなにたくさんの子どもたちが体操を習っていることに驚きました。しかし、考えてみると、冬には屋外のスポーツができなくなる雪国だからこそ、室内でできるスポーツということで、体操クラブには人気があるのかもしれません。

体操競技には、体の柔らかさをはじめ、筋肉や力強さ、バランス感覚、跳躍力、瞬発力、握力、またリズム感など、実に多くの要素が必要とされています。オリンピックなどで人間の限界に挑戦するかのような素晴らしい演技をする選手たちは、まさに選ばれし者、エリート集団のように見えます。体操競技を本格的にやっというころとすなら、遅くとも小学校2年生くらいまでには習い始める必要

があるそうです。それを聞いて、「小さなお子さんが親御さんに連れられて習いに来たとしても、素質のありそうな子、なさそうな子は、パッと見てわかったりするのですか?」と尋ねてみました。すると彼は、確かに素質、素材という点では差があることは否めないと言われたあとで、きっぱりとこう言われたのです。「素質、素材というよりも、大切なのは体操をするのが好きで、喜んで通ってくる子は伸びます。いくら素質に恵まれていても、やったり、やらなかったり、では絶対うまくなりません。むしろそういう才能がないように見えても、気持ちにムラがなく、コツコツと長く続ける子どもの方が伸びます。そのほうが素質や才能よりもはるかに重要であり、大事なことだと思います。それは、何にも優る才能だと、僕は思っています。」

私たちの信仰生活にも当てはまる真理だと思いました。イエス様が大好きで喜んで歩む姿勢、そして毎日のコンスタントな信仰の歩み、神学院で繰り返し言われた「真面目な信仰生活」の大切さを再確認させられました。(葛田康毅)

巻頭言

私にできる世界宣教がある



世界宣教局
平瀬義樹

6月を迎えました。今月はペテコステのシーズンです。五旬節の朝、主のお約束の通りに、聖霊が弟子たちの上に臨まれ、弟子たちは御霊が語らせるままに他国の



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

ことばで福音を話し始めました。そこに教会が生まれ、全世界に福音が広がって行きました。福音の広がりが、それは「弟子たちのことば」によりました。

冒頭のタイトルは、過日開催されたJOMAの50周年特別企画「ズーム・イン・ミッションII」の中で、私の心に留まったものの一つです。この後にこう続きます。「……そう思いワクワクしています。……長きに渡るこれまでの働きから、違う新しい働きに移行された先生のことはです。日本に帰国し、まもなく一年を迎えますが、このような機会が与えられたことをとても感謝しています。19の宣教団体、教団、教会の世界宣教の働き、具体的な取り

組みを見聞することができ、初めて聞いたこと、新しい発見、とても参考になったことも多く、今後の課題と祈りなど、実際に参加しなければわからないことがたくさんありました。聖書翻訳の現場から「私はこの人々の慰めにはなれないけれど、聖書を彼らに残すことができれば、主が彼らを慰めてくださる。」との声も聞きました。宣教の働きは、まさに「神のことば」によるのです。

コロナの諸制限のない大型連休が明け、運動会や遠足などの学校行事も実施され、飲食の人数制限も緩和され、私たちの日常も少しずつ回復していつているようです。教会でも昨年はできなかったイースターの集いなどがもたれ、これまでの歩みに少しずつ戻りつつあります。そのような時期「私にできる世界宣教がある」とのことばを静かに思巡しようではありませんか。神さまは私たちに何を期待しておられるのでしょうか。私にできる世界宣教とは何でしょう。それを心に収め、静かに思い巡らすことから始まるのではないのでしょうか。

「弟子たちは出て行って、いたるところで福音を宣べ伝えた。主は彼らとともに働き、みことばを、それに伴うしるしをもって、確かなものとされた。」

(マルコ二六・20)
「みことばを宣べ伝えなさい。」
(IIテモテ四・2)



CAMBODIA

カンボジア

蔦田緑乃*2022年5月1日

「召されたその召しにふさわしく歩み：謙遜と柔和：寛容・愛をもって互いに耐え忍び、平和の絆：御霊による一致を熱心に保ちなさい。：愛されている子どもらしく、神に做つ者となりなさい。」

(エペソ四・1、3、5、1)
神様の御言が開かれる時に働く人智を超えた御霊による説得力に「畏れと慄きを覚え」(詩篇・11)させられます。神様のお働きがサタン攻撃から守られるようにと祈る日々ですが、「試練は歩兵の如く来たらず連隊兵の如く来たる」とBTC時代に教えられた通りの状況です。

ある土曜日の夜、ヴァンディ師御夫人テス師からのメールで、「ヴァンディから蔦田先生に、母が高熱と高血圧が下がらず急遽入院したので日本の教会にお祈りをお願いしたい」と病院からの伝言。翌日の聖日礼拝の御用はグレッグ師に委ねて、入院したお母様に付き添う彼の写真が送られて来まし

た。カンボジアでは入院費はとてつもない高額と聞いていましたので、彼にとつての信仰の挑戦が再び始まった事を感じました。実はこの事の前に、彼の神様への姿勢が気になる一つの発言があり、それは米国から帰って来られたマク宣教教師の発言が多分に影響しているものではないかと感じながら、その時は議論に巻き込まれないよう主にお委ねし、同時に私のマク宣教教師に対する心が聖霊により守られるように祈る必要が生じた事が思い起こされたのです。

折りしもグレッグ師とマーク師との月末の定例スカイプトーク(ST)の日が近づき、私の心に誘惑として中止案が襲いましたが、その頃、朝の密室でエペソ書を学びながら、「神に做つ者となれ」(五・1)が心に留まりました。STのその日、主の特別な御助けを仰ぎつつ、G師とM師の巡回旅行の報告を通して、地方に散らばる伝道者方の霊的状况・渴きをひしひしと受け止めるひと時となりました。締め括りにエペソ書から冒頭の聖句を開いた時、彼らの心に説明できない聖霊のタッチを感じ、それは締め括りに彼らが祈った祈りにも頷かれました。人間の「説得力のある知恵のことば」によらず御霊による一致の霊が訪れて、祈りに和している私の心にも平安が与えられました。と同時に「神に做つ者」の歩みを追い求める者であるように、と励ましを与えら

れました。

その直後、V師から祈りのお願いが届きました。お母様が一度退院しましたが、今度は尿路感染症も加わり、抗生物質の治療薬も医者に見出せず再入院、加えてダビデ君が肺の感染症となり一週間学校にも行けず、という状況に、IGMの皆様のお祈りを再度乞うてこられました。心配な事はV師のご霊肉がこの過酷な試練にも支えられるようにということです。御言が力をもって臨み、励まし、救霊に動じることができると、彼の信じる如く主が応答してくださる、栄光を主に帰することができますようにお祈りください。■



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2022年5月10日

新型コロナウイルスの動向は引き続き下火で感謝です。ただ完全に危険が去ったわけでもありませんので、特に回復室に来られる方々はマスクの着用をお願いしています。

今年はいースターが4月15日

した。2年ぶりに早朝礼拝と集会場での礼拝を対面式で持ちました。例年のように、金曜日にR宣教師宅の庭に十字架が立てられ、日曜の朝6時半から早朝礼拝が持たれました。昨年と一昨年は制限しつつでしたが、今年にはほとんどがマスク着用しながらも、ほぼ例年通りの間隔で着席し、一緒に礼拝できました。各々が賜物を持ち寄り、賛美や器楽演奏をする特別プログラムも例年通りありました。礼拝の後は、奏楽の間に家族単位で前に出て、あらかじめ準備したお花を十字架に飾り付けました。

少し間をおいて、屋内で9時15分から礼拝が持たれました。今までは私自身は、インターネットが使える環境にあり、もし出席者から感染したり、自分が感染源となる可能性があるので、規制が少し緩くなってからも自宅オンラインで礼拝に参加してました。しかし最近さらに規制が緩くなり、ワクチン接種をしていれば集合可能等となったので、このいースターから会場で参列することを再開しました。

礼拝の後は、二家族合同で特別なご馳走に招いて下さったご家族のお宅に伺い、それぞれのおうちの「伝統」などを伺いながら楽しい時を過ごしました。同じWGMで対ハンガリー宣教師の子どもとして育った女性が同席していて、ハンガリーのクリスチャン人口が日本並みに少ない事を教えて



いただきました。以前ハンガリーからの医学生がボランティアで来ていたのですが、そんな大変な背景から来られていた事を当時もっと知っていたら、と反省しました。他にも単身の短期宣教師が招かれていました。私自身、こちらのご家族だけでなく、様々なご家族から「いースターに予定入っている？うちでお招きしよう」と思っていたんだけれど」と声をかけていただき、ご家族で赴任されている方々から特に単身者に心配りをいただいております。単身者でも、昨年引退されたB宣教師は、早朝礼拝と通常礼拝の間に他の単身者をご自宅に招いて特別な朝ご飯をふるまっておられました。同じようにはできませんでしたが、まだまだ何も分からないという思いがあるのですが、いつの間にか、年数だけは上から数えた方が早くなってしまいました。

3月22日からの一か月休暇も4月29日の初出勤で締め括られるはずが、前大統領の葬儀のため急きよ公的な休日となり、もともと

国民祝祭日の5月1日が日曜日のため月曜日が代休になり、もうひと息付ける事になりました。さらに5月3日がいースター系の休日（毎年日付が変わる種類のもの）でしたが、手術室をあまり長期に閉めるわけにもいかないので、手術室だけは3日とは別の日に代休を取るようになりました。■



TAIWAN

台湾

久保光彦・せきな*2022年5月7日

行うことが許されました。コロナ禍ですので、台中教会ではあらかじめ個包装されているウエハースとぶどう液を用いました。また、いースター礼拝では、台中教会のウクレレチーム「希望之光」の特別讃美も捧げられました。「神の国と神の義を」と「Amazing Grace」の2曲が演奏されました。ウクレレ以外にも、フルート、ドラム、歌など様々な要素が加わった演奏となり、主の復活をお祝いするにふさわしい特別な讃美のひと時となったのではないかと思います。

毎月ご奉仕でお伺いしている台南聖教会の日本語礼拝でも、翌週に聖餐式を持ちました。こちらにも感染者が増えていることなどを鑑みて、代表の方がパンとぶどう液をみなさんに配布する形となりましたが、幸いなひと時となり、感謝でした。

3月中旬までは新型肺炎の感染者数は非常に落ちていた様相を呈していましたが、3月の下旬から増加傾向に転じ、4月に入り、これまでになくペースで感染が広がりを見せています。特に台北市と新北市など北部での感染の勢いが凄まじいです。私たちがいる台中や南部の台南ではまだ比較的穏やかですが、引き続き台湾での新型肺炎の感染状況も抑えられていくようにお祈りください。

今年の復活節は、私たちが台湾に赴任して初めての復活節でしたが、対面での礼拝、聖餐式も執り

新型コロナウイルスの感染者が増えている中ですが、教会では対面での礼拝と午前前の祈禱会を継続することが許されており感謝です。（諸事情で感染を警戒する方はやむをえずオンラインで参加されています。）昨年の同時期には強制的に集会がオンラインのみになった時期がありました。今年は何んとか対面を継続できればと考えています。2年目に入る小さき者たちのためお祈りを感謝します。長女は4月より小学2年となりました。新しい学年の学びも祝されますようお祈りいただければ幸いです。■

IWF 宣教師 活動報告

ブランドン・久芳宣教師



IGMの皆様の真実なお祈りを心より感謝いたします。6月から始まる3か月間のアメリカ巡回へ向けて準備をしています。次の日本でのご奉仕ができるように、すべての経済的必要が満たされますように、お祈りをよろしくお願いいたします。

できるだけ早く日本に戻り、また皆さんにお会いしたいです。教会やキャンプ訪問の中で、日本の伝道や教会の状況についても分かち合いたいと思っています。夏の間、下関教会も守られますように、お祈りください。私たちを送り出してくださる教会の皆様には心より感謝しております。

今年度、神様は様々な伝道の機会を与えてくださいました。ギデオン協会と共に数百冊の聖書を学校に配布しました。梅光学院の英語礼拝が再開されました。今後も、地域に開かれた伝道をしていきたいです。北九州教会とも良き協力関係の中にあり感謝です。

「彼は主に叫んで祈った。」
(一列王一七章20、21節)
受難週の金曜日からイースターの日曜日にかけて私たちは南スカイライン教会のファミリーキャンプに家族で参加しました。2019年に初めてこのキャンプ場で開かれたファミリーキャンプには、宿泊施設が整っておらず、

私たちもテント持参で参加しました。今回はキャンプ場内にある教区长ジャーソン・ダナオ先生のお宅に泊めていただきました。テントも持参していたので子どもたちは教区长宅の建設途中の二階にテントを張り、他の子どもたちと楽しく過ごすことができました。今回のテーマは「主の御護り」で、国内教会局長のアモス先生が聖会と宣教会、教区长ジャーソン先生が2回の聖書講義を担当され、テーマに則してメッセージが語られました。

イースターの朝には5時半から早天イースター礼拝を守り、イエス様の復活を思い巡らすときが与えられました。今回はコロナ禍ということもあり、2回に分けキャンプが開催され1回目はユースが220名、2回目はファミリーで380名、合計600名の参加者が与えられ、コロナで2年中止されたキャンプを主が祝福してくださいました。帰り際に宣教車の右後ろのタイヤがパンクするなどハプニングもありました。



聖書大学では、対面での授業ができていませんが、毎週チャペルでの集まりをFacebookで継続しています。今月は、常喜がメッセージ、そして特別讃美を私たち家族が担当し、讃美のビデオとメッセージのビデオを作成しました。子どもたちが積極的に参加協力し、家族で主を讃美するビデオを作成でき感謝でした。メッセージは「祈り、嘆きから望みに向かって」で、第一列王記一七章から語らせていただきました。

子どもたちのパスポートの更新のために、2度ロサリスとマニラを往復しました。無事にパスポートが更新されて感謝でした。この後、古いパスポートにあるビザ証明印を新しいパスポートに移す手続きをすることとなります。



2年ぶりのマニラでしたので、課外授業の一環として大使館近くの国立博物館と国立美術館を見学しました。国立公園の大きな敷地内にある巨大な建物で、家族で12キロも歩き回ることになりました。最後はヘトヘトに疲れ果ててしまいました。楽しいひと時となるため、また次回の宣教訪問団を迎えるための下見ともなりました。

お祈りの課題

カンボジア(鳥田緑乃)
◆伝道者、宣教師の霊的一致と祝福、特にマーク師の御奉仕がKC Cにとり祝福となるように
◆ブロンペン市に建て上げられたつあるキリストの御体が御霊により建て上げられるために、回心者がキリストの弟子として成長し、救霊のみわさが掛されるように

■会計報告4月分
宣教師金 九一九、七九九円
月平均 一、四九四、八一五円

◆ヴァンディ師のお母様の健康の快復とともに信仰の更なる開眼と成長、ヴァンディ師のご霊肉の支えと働きに主の力添えをケニア(鳥田就子)
◆新型コロナウイルスの感染が落ち着いてきている感謝
◆病院の働きが、福音の深化と伝達のために用いられるように
◆麻酔科、整形外科等の働き(ルカ一〇・2)が起されるように
◆台湾(久保)
◆国内感染症例が急増している中、教会と家族が守られるように
◆2年目に入る働きに、主の導きと祝福が豊かであるように
◆地域の平和が保たれ続けるように

◆3か月ぶりに対面礼拝が再開されたことへの感謝
◆6月5日の創立13周年感謝礼拝のために
◆近隣への人国マルチビザが速やかに与えられるように
◆フィリピン(豊田)
◆卒業された学生たちの教会での働きのために。夏休みに入った学生たちの霊肉がともに守られるように
◆聖書大学では新年度(2022年8月)から対面授業を計画中、そのための経済的必要と準備が整うように
◆事故、事件、怪我、過ち、災害病氣、疫病から家族が守られるように。常喜の網膜静脈閉塞症の回復のために

◆香港(鹿島)
◆3か月ぶりに対面礼拝が再開されたことへの感謝
◆6月5日の創立13周年感謝礼拝のために
◆近隣への人国マルチビザが速やかに与えられるように
◆フィリピン(豊田)
◆卒業された学生たちの教会での働きのために。夏休みに入った学生たちの霊肉がともに守られるように
◆聖書大学では新年度(2022年8月)から対面授業を計画中、そのための経済的必要と準備が整うように
◆事故、事件、怪我、過ち、災害病氣、疫病から家族が守られるように。常喜の網膜静脈閉塞症の回復のために

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

聖霊に励まされた前進

院長 ● 林 正弘

「こうして、教会はユダヤ、ギリヤ、サマリアの全地にわたり築き上げられて平安を得た。主を恐れ、聖霊に励まされて前進し続け、信者の数が増えていった。」

(使徒の働き九・31)

新学年度が始まって、まもなく2か月になります。時間割は学期ごとに変わりますので、各学期の初めに新しいパターンでの学びと生活が始まります。今年は神学生の顔ぶれにほとんど変化がなかったこともあり、その新しいパターンに慣れるのも早かったように思います。落ち着いた良い学びが続けられています。

「慣れる」ことが落ち着きをもたらす要因の一つであることは確かですが、すべてではありません。使徒の働き九章には、落ち着きを得て前進した教会の姿が描かれています。教会を迫害していたサウロが復活の主に出会って回心したことをきっかけにして、教会は築き上げられて平安を得ました。さらに、教会は聖霊に励まされて前進し続けたと記されています。ここでの「教会」は単数形です。一つの教会が全地にわたって築き上げられていった様子に、教会の一体感が表されています。「主を恐れ、聖霊に励まされて」は、教会

のあり方を示しています。敬虔な思いで主に従う姿勢が土台であり、聖霊の励ましが力となります。弱く間違いやすく、力も知恵も足りない私たちが、聖霊なる神さまに励まされ、導かれて前進し続けることができます。そして「増えていった」という結果が伴います。「信者の数が増える」という結果が伴います。数に表れる成長もありますが、もっと内的な豊かさに表される成長があるのが教会です。ここに示されている教会の姿が私たちのなかにも見られたら幸いです。

神学院では前期の学びがさらに続きます。教会はペンテコステを越えて歩みを進めます。その歩みが、平安を与えられ、聖霊に励まされて前進するものであるように願っています。



キャンパスに、密かに咲いているエニシダ

神学エッセー

エニシダの木陰



宮崎聖輝

教会にエニシダの苗があります。一昨年、コロナ禍がはじまったとき、妻がホームセンターで購入してきた苗で、花を咲かせるのは今年で二回目となります。妻は教会に通う皆さんがこの木を見て少しでも癒やされますようにとの思いを込めて購入しました。実際に育ててみると、可愛らしい黄色い花を咲かせます。またその香りも良く、柑橘系のようなさわやかな香りで、近づくと癒やされます。

第一列王記一九章で、エニシダが登場します。カルメル山での対決の後、王妃イゼベルの脅しを受けて、エリヤはユダの南、ベエル・シエバへと逃げていきます。そして更に荒野へと入っていくとき、エニシダの木にたどり着きました。この時、エリヤは疲労困憊していました。エニシダの木の陰に座りました。エニシダの木の陰に座り、死を願って彼はこう言います。「もう十分です。私のいのちを取ってください。」彼はエニシダの木陰で眠りますが、しばらくすると御使いが現れて彼を励まし、パンと水を与えます。彼は再び横になっ

て休息を取った後、再召命の道へと踏み出していく場面です。



エリヤにとってエニシダの木陰は「疲れた魂を癒やす逃れ場」でした。信仰者にとっての逃れ場は、いうまでもなくキリスト。「疲れた人、重荷を負う人はわたしのもとに来なさい」私たちを取り巻く環境は嵐の連続ですが、「しっかりといなさい。わたしだ」と語り続ける主に目を留め、主のもとで憩う者でありたいと願われます。

後で知らされるのですが、エリヤにとつての木陰とは、エリヤをはじめとした同労者たちでもあったことがわかります(15、18節)。孤立奮闘しているかに思えたエリヤに「仲間がいる、友がいる、後継者を育てる使命がある」と主はエリヤを励ましました。主は、信仰者に必要な木陰を備えてくださいます。それは主ご自身、そして信仰の友、同労者。信仰のレースを走り切るため、ときには立ち止まり、木陰なる主と同労者たちに身を寄せながら十分に休息をとることの大切さを覚えたかと思えます。

◆新学期を迎えるにあたって

主の約束と
召命を覚えて

正規コース 森 徳子のりこ

「まことに、主はシオンを慰め、そのすべての廃墟を慰めて、その荒野をエデンのようにし、その砂漠を主の園のようにする。そこには楽しみと喜びがあり、感謝と歌声がある。」

（イザヤ書五一・3）

新しい学年、新しい学期がスタートして、早二か月が経とうとしています。無事この学年を迎えることが許され、主に感謝するとともに、背後にあつてお祈りくださっている皆さまにも、感謝致します。私は前の神学校での単位が一年分認められていますので、この学年が教室で授業を受ける最終学年となり、順調にいけば来年度はインターン生です。「早」というべきか、学びを中断していた期間も含めて、「やっと」なのか…。フルタイムの献身に導かれて、それまで勤めていた会社を退職するまさに一か月前の全体朝礼で、社長がこのような話をしてくださいました。

レンガを積んでいる二人の人に会った。それぞれの人に、「あなたはそので何をしているのですか？」と問うと、Aさんは「レンガを積んで、土台を造るよう言われたので、そうしているのです。」と答えた。一方、Bさんは「立派な教会を建てるために、レンガを積んで土台を造っているのです」と答えた。この二人には大きな違いがある。それは、ただ作業をしているのか、それとも希望と目標を持って、それに向けて必要なことをしているか、ということである、と。

時として、先のAさんではないですが、目の前のことに精一杯、何のためにここにいるのか、何をしようとしているのかを見失うことがあります。先日、チャペルメッセージを準備するにあたって、いくつもの分からないことにお悩みました。なんとなく理解していたつもりでしたが、きちんと消化できていなかったのです。何度も文脈や前後関係を見比べ、祈り、どうしても分からないとい

ろは注解書を確認しながら、説教原稿を作っていました。すると、まるで聖書勉強会のように、一番伝えたいことがぼけてしまい、ようやく授業で習った積義の大切さに気がつく、という始末。それでも準備期間を通して、一つの讃美歌がテーマソングのように私の中で流れ、一つのキーワードが幾人かの口から聞こえてくる。聖霊さまの助けがある。

この学年での学びと訓練と交わりが、将来、喜びの声をあげて、主の贖いを告げ知らせるために、地の果てにまで響き渡らせるために与えられていることを改めて覚えて、冒頭の主の約束のみことばがなる日を待ち望みます。



大きく育った樹木を伐採する徳竹信雄先生



この機会に神学院の昼食をご紹介します。コロナが少し沈静化してきて、ようやく厨房が動き始めました。ご奉仕くださった方々の力作です。神学生は皆さんといっしょに準備をしながら、調理法だけでなく、心遣いなど、たくさんのお話を聞いています。ちなみに、毎食かこうではありません！



*月初めの月曜日の夜に、Zoomを用いて神学院祈り会が行われています。合同祈禱会を思い出します。院長をはじめ教師たち、スタッフ、同窓会や後援会の方々と、心を合わせて祈っています。

いま神学院では……
わくわく感をもって学ぶ
教師●川嶋直行



「主の書物を調べて読め。これらのものうち、どれも失われていない。それぞれ自分の伴侶を欠くものはない。それは、主の口がこれを命じ、主の御霊がこれらを集めたからである。」(イザヤ三四章16節)

前期の水曜日の午前中2コマ、「五書」のクラスを担当しています。水曜の夕べには深川教会の祈祷会がある為、Zoomによるオンライン授業とさせて頂いています。クラスの受講者は2名です。内容は、創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記、所謂「モーセ五書」の内容を把握することです。地理的な関係を把握することも、み言葉の理解の助けとなります。クラスから、地図もよく参照します。「教科書」は使わず、教師が纏めた資料(PDF)を参考にしながら、実際に聖書を開いて読み進めています。受講生は、ヘブル語の基礎を1年間学んで来ましたので、ヘブル語から言葉の意味を確認し、理解を深めることもできます。

モーセ五書の緒論として、文書資料説や、伝承史の問題にも簡単に

に触れています。創世記一章から一章の「原初史」は、誰が、どのようにして書くことができたのか、それ以降の「イスラエル民族形成史」において、モーセが著者としても、どのように編纂された行ったのか、批評的な視点を持ちながら読む姿勢も大事にして行きたいと思っています。「聖書は神のことばである」との聖書信仰に立って読むことは、基本中の基本ですが、考古学から得られる知識や、科学的な見地も否定せず、たとえ一見、矛盾とみえる箇所や、理解の難しい箇所も、分からないことは分からないまま保留しておくことも必要だと思います。そのような姿勢は、聖書の読み方のみならず、伝道教会にも有益な訓練となると思います。クラスを通して、聖書の信仰的な読み方と批評的な読み方の両方を養って行くことを目標の一つにしています。

「五書」はヘブル語では「トラー」、聖書の土台であるとともに、この世界の成り立ちや、人間を理解するための土台となります。「五書」は、人間が創作したストーリーではありません。「五書」がなければ、歴史や文化や科学、あらゆる分野で、真理を「知る手掛かり」を失っていたことでしょう。「五書」は、「イエス・キリストの福音」と並ぶ、知識の宝庫だと思っています。一読すると冗長に感じる箇所も、そこに宝が隠されていることがあり、わくわく感を持って「五書」を学んでいます。

同窓生の近況

64期生
高津教会●戸塚雅昭



卒業してから5年になります。前院長先生が手掛けた神学院改革の恩恵を受け、短期コース2年間の通学での学びが許されました。楽しく充実した日々を懐かしく思い出しています。毎年任命を頂戴し高津教会で主任牧師ご夫妻と共に働きの一環を担ってまいりました。

初めの2年間に兼任で派遣された静岡教会では、信徒の方々に助けられ、新たな教会実習を体験する貴重な機会が備えられました。今でも感謝に堪えません。

3年目からは、神学院で教える立場に導かれるという、あり得ない展開に一時は戸惑いました。これらの奉仕とともに、地域の小学校での児童支援や、学童保育の学習ボランティアの機会が与えられています。教育現場の実情を前にした時、求められているのはキリスト教ではなく「福音」だということを感じさせられます。

今年の年會時に持たれた期別の祈り會は、小さな同窓會でした。皆様のお祈りに支えていることを実感したひとときでした。ありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

神学院スタッフ…恵みの想起

神学院のイメージ

営繕課 徳竹信雄

「祈りの霊が宿れるところ」と思うと胸が熱く燃やされます。昔懐かしい神学院の合い言葉は「神学院の祈りは聞かれる……」。その様なイメージがありました。

今年3月にたくさんの生い茂った高枝を切り落としました。切り落とされた枝先から新芽が一齐に芽を吹き、若返った新しいのちが溢れています。ところがサタンは風船を針で刺すように、いたずらをしてその期待を無にしてしまっています。心を揺すぶられるような事もあり、自らの弱さの故に失敗を恐れる事もあります。こうした弱さを克服して、豊かなイメージを持ち続けたいと思います。その結果、神学院は素晴らしい生活の場所に変えられます。今日も神学院の森に、ペンテコステの月にふさわしい聖霊の御業を期待します。

学苑だより



●キャンパス内では草が伸び始め、草刈り機が活躍し始めています。

●5月10日(火)、深川教会より3名の信徒が来院され、清掃作業などのご奉仕してくださいました。ありがとうございます。

●5月12日(木)午後、教師會がオンラインで開催されました。特に神学院の将来について熱く議論が交わされました。

●5月17日は創立記念日でした。各教会からの感謝献金に心から感謝いたします。月々の献金にも引き続きご協力をお願いいたします。

●創立記念日特別実習が行われ、15日王子教会、22日板橋教会と越谷教会に神学生が派遣されました。

●水曜夜のフェロシップでは今学期、毎回違ったトピックで分かち合いがなされています。18日には、それぞれのデイポーションについて分かち合い、これまで使用した本などを紹介し合いました。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。4月の会計報告をさせていただきます。

4月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥1,500,000

教会員による
「神学院サポート献金」
¥473,130
教会団体による「神学院献金」
¥531,095
合計 ¥968,225
その他の献金(一時・特別)
¥22,000

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

「主は、ご自分の民に力をお与えになる。主は、ご自分の民を平安をもって祝福される。」

(詩篇一九・11)

この年も上半期を締めくくる月を迎えました。全国教会は新型コロナウイルス、ウクライナでの戦争による経済的影響など、試みの中を通っておられることと思います。そのような中で、ペンテコステを迎えます。聖霊が豊かな働きの中で生み出してくださる平安に各教会が包まれますようにお祈りいたします。夏に向けての各教会、教区の計画に主の守りと助けがありますように。

■本部

▼本部業務時間

毎週火曜日 午後1時～4時

(出版事業部)

毎週木曜日 午後1時～4時

(会議)

▼16日(木) 災害対策委員会

▼28日(火) 午後1時30分 厚生委員会(本部会議室)

委員会(本部会議室)

*本部会議室を使用することができます。人数制限があります。(制限の目安) 大会議室10名、小会議室5名) コロナ感染防止に努めてご利用ください。各部屋ともZoom会議ができるように機器が設置してあります。

会議室ご利用の際は本部備付の

申込書の提出をお願いいたします。ワードのフォーマットもありますので本部までご連絡ください。

■国内教会局

▼3日(金) 宣教研究委員会(Zoom会議)

▼17日(金) 国内教会局実務会(Zoom会議)

《JEA(日本福音同盟)》

第37回 JEA総会

6月6日(月)～8日(水)に

つま恋リゾート彩の郷で開催予定です。当教団からの代議員は岩上祝仁、内山勝、葛田聡毅、葛田直毅、田辺寿雄の各師5名です。

《JEF(日本福音連盟)》

第55次 JEF総会

今月対面開催の予定でしたが、新型コロナウイルス対応で書面による総会となります。

■世界宣教局

▼ケニアの葛田就子宣教師は、6月末に帰国、8月より国内での巡回を開始されます。

対面またはオンラインどちらでも受け付けます。ぜひ教会、教区、聖会、キャンプなどにお招きください。申し込みは神栖教会の葛田敬子先生まで。

▼富澤香元宣教師は、引き続きザンビアに滞在され、残務整理に当たっておられます。無事に荷物の整理が済み、日本に送ることができるようお祈りください。

▼今年実施される愛の泉プロジェクトは以下の通りです。

・ケニアII移植手術用替え刃

・台湾II教会用プロジェクト設

備

・フィリピンIIカバカン聖書学校図書館用コンピュータと集会用ギター&アンプ

・ボリビアII神学生の奨学金(卒業費用)

今年も宣教コイン献金へのご協力をお願いいたします。

▼田辺局長は、5月23～25日、インドネシアで開催されたアジア福音同盟の会議に出席しました。

▼5月31日(火)、IWF理事会が行われました。

▼ブランドン久芳宣教師ご夫妻は、6月13日より3か月間、アメリカへ帰国されます。

■教育局

《教育部・生涯学習課》

▼有志牧師による読書学び会

「喜悅の盈満」(葛田二雄師)を用いての小グループの牧師対象の読書学び会(月に一度、オンライン)が開始されています。(詳しくは浜松教会・葛田順子師まで)

▼若手牧師研修会

日時 7月5日(火) 午後1時30分

分(Zoom)

テーマ「召しをもう一度考える」

牧師の危機を支える召命理解

《教育部・信徒教育課》

▼信徒向け聖書講座(無料、各教会で自由に利用可)

内容II「使徒の働き」(岩上敬人師)

第17回目まで公開中

過去の信徒聖書講座

内容II「救いの確立」(熊谷邦男師)

第3回まで公開中

聖書講座は教育局HPから常時

発行人 岩上祝仁 編集者 寺村秀嗣

発行所 東京都千代田区神田駿河台一

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇

〇〇CCビル イムマヌエル綜合伝道団本部

新生宣教団 定価 一部110円(税込)

郵便振替 001107133609

祝聴可

《青少年部・青年課》

▼ビルド(月に一回、オンライン開催)

*今後はテーマに基づいて語り合う「トークビルド」と、聖書の学びをする

「聖書を学ぶビルド」を隔月で開催予定。

第1回聖書を学ぶビルド

日時II 6月26日(午後7～9時)

ゲストII 岩上敬人師

▼第8回YSBリトリート

日時II 7月3日(日)

講師II 田辺寿雄師

テーマII 「神のデザイン」私の中の〇〇発見」

《青少年部・中高生課》

▼第15回とにキャン2022

日時II 8月9日(水)～12日(金)

講師II 鈴木雅也師(JEJ)

テーマII 「LINE」つながろう、のりこえよう

形態II 対面orオンラインを検討中

《eラーニング》

4月18日から開始されている講座

「非暴力コミュニケーションを学ぶ」

(講師II 久保木聡師・ナザレン鹿兒島教会)

今からでも受講可能です。牧師・宣教師・神学生・信徒伝道者には、申請を頂ければ補助があります。(申請窓口II 野田慎師)

■聖言神学院

▼先月15日、22日に創立記念日特

別教会実習が行われました。受け入れ教会に感謝いたします。

林真光兄 板橋教会

森徳子姉 王子教会

▼今月の学院祈り会は6日(月)、オンラインで行います。

▼ベテルハウスの利用再開に向けて、施設利用ガイドラインを作成しています。

■出版事業部

常勤部会 10日(金) オンライン

《祈りのネットワーク2022》

ご協力を感謝します。2022年版を発行しました。今回も追加の注文を取れませんでしたので、昨年と同様に、教報講読部数に若干数を上乗せしてお送りしてあります。追加分については送金は不要です。ご自由にお用いください。

《式文パイロット版》

条例審議委員会から「式文パイロット版」が牧師宛に送付されます。洗礼・聖餐・葬儀に関わる式文の抜粋になります。一年間ご試用くださり、感想やご意見をお寄せください。来年には正式版「式文」を作成いたします。

消息報告



▼長らく勸士としてご奉仕なされた鍋島泰雄兄(京都伏見教会員)は、5月13日、天に召されました。98歳でした。ご遺族と教会に主の慰めをお祈りいたします。

教報PDFパスワードII 7953